

令和7年度第1回長崎市地域医療審議会 議事録

会議名：令和7年度第1回長崎市地域医療審議会

日時：令和7年5月20日（火）18時30分～20時00分

場所：長崎市役所7階 大会議室B

出席者：別紙のとおり（委員17名 うち6名はオンライン）

議題：

- 1 会長・副会長の選任
- 2 長崎みなとメディカルセンターの現状と今後の構造改革について

報告事項：

長崎区域 区域対応方針の策定について

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、令和7年度長崎市地域医療審議会を開催いたします。

本日はご多忙の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

司会を務めさせていただきます、地域医療室の渡邊と申します。よろしくお願ひします。

前回は昨年11月に会議を開催しましたが、令和7年1月7日に前回までの委員の任期が終了し、新たに令和7年1月8日から令和9年1月7日までの2年間で委員を選任し委嘱させていただいております。

それでは、はじめに、本審議会の開催にあたり市民健康部部長の島村よりご挨拶申し上げます。

【市民健康部長】

こんばんは。市民健康部島村でございます。

本日は、大変お忙しいなか、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、日頃より、本市の地域医療行政の推進に関しまして、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様も数名変更がありまして今年度初めての会議となります

本審議会は、長崎市の地域医療提供体制の構築について、専門的な見地からの調査審議を行うことを目的として設置しております。

少子高齢化の進行とコロナ禍を経て、地域医療を取り巻く環境も変化してき

ている中、本日の議題といたしましては、長崎みなとメディカルセンターの構造改革についての議論を進めていきたいと考えております。

併せまして、報告事項として昨年7月に将来の人口構造の変化を考慮し、2025年の医療需要と病床数の必要量を医療機能ごとに推計した地域医療構想の更なる推進を図るために、長崎医療圏が国のモデル推進区域に選定されたところであります。

県において長崎区域の区域対応方針が策定されておりますので、それについてご報告させていただきます。

また、今回の議題ではございませんが、次回の議題としまして、一次救急の在り方検討がございます。長崎市夜間急患センターの小児科に従事するドクター、特に深夜帯に従事するドクターの確保が困難になっていることから、今後の夜間救急の在り方、それから開業小児科医の高齢化に伴う小児科医の減少する中での休日当番医体制の在り方等、現在課題を整理しておりますので、次回の審議会でご報告をさせていただきたいと思っております。

委員の皆様におかれましては、限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【事務局】

続きまして、本審議会は現在の委員の皆様としては、初の開催となりますので本日ご出席の委員のご紹介をさせていただきます。

～委員紹介（略）～

次に、まだ紹介していない事務局の職員と関係人の紹介をいたします。

～事務局・機構紹介（略）～

続きまして、会の成立についてご報告いたします。

長崎市地域医療審議会規則第5条第2項の規定に基づき、委員17名中、本日の出席者は17名であり、出席委員が過半数を超えておりますので、この会は、成立しておりますことをご報告いたします。

なお、新たな委員の選任後、初めての会議となりますので、進行は事務局で進めさせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。

まず、議題1「会長・副会長の選任について」ご説明いたします。

本日の審議会は、現委員の選任後、初めての審議会となりますので、長崎市地域医療審議会規則第4条第1項の規定に基づき、会長及び副会長を定める必要がございます。

選出の方法につきましては、委員の互選により選出することとなっております。

はじめに会長について、どなたか推薦はありますでしょうか。

【委員】

前回の地域医療審議会の会長を務められた長崎市医師会の松元会長を推薦したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

ただいま、松元会長の推薦がありました。委員の皆様、いかがでしょうか。

【委員】

～異議なし～

【事務局】

それでは、松元会長、前の席にご移動ください。松元会長に一言ご挨拶をお願いいたします。

【会長】

只今、進行役を仰せつかりました松元です。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。これより先の議事進行は松元会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

【会長】

それでは、次に副会長の選任につきまして、どなたか推薦はございませんか。

推薦がないようですので、私の方から前回も副会長をされた経験がある谷口委員を推薦したいと思います。委員の皆さんいかがでしょうか。

【委員】

～異議なし～

【会長】

副会長は谷口委員に決定させていただきました。谷口副会長に一言ご挨拶をお願いします。

【副会長】

引き続き副会長を務めさせていただきます。松元会長をお支えして審議会を支えていきたいと思っております。

【会長】

それでは、議題2「長崎みなとメディカルセンターの現状と今後の構造改革について」に移らせていただきます。門田委員につきましては関係者席へのご移動をお願いします。

事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

議題2「長崎みなとメディカルセンターの現状と今後の構造改革について」説明

- 令和7年度の本審議会で行う協議事項と今後の流れ
- 病院概要
- 第4期中期目標期間（令和6年度～令和9年度）における目標値
- 令和6年度の経営改善の取り組み
- 令和6年度の経営状況
- 全国の自治体病院の経営状況
- 医療需要の傾向
- みなとメディカルセンターの構造改革

【市立病院機構理事長】

コロナ禍を経て、構造改革が期せずして進んできている一面もあるが、人口減少なども影響して病院経営は厳しい状況にあります。みなとメディカルセンターでは医業経営コンサルタントを活用して構造改革の議論を進めていますが、本日は皆様に忌憚のないご意見をいただき、構造改革案に反映していきたいと

考えています。よろしく申し上げます。

【委員】

コロナ禍の3年間、みなとメディカルセンターが最後の砦として長崎の医療を支えていただいたことには非常に感謝しています。そのあおりで経営が悪化していることも事実であろうと思います。

経営状況等の資料から患者減少に伴い収益が落ち込んでいると読み取れますが、費用の部を見ると増えています。基本的に患者が減れば費用も減るのが普通ですが、費用が増えていることが経営悪化の要因の一つではないかと推察します。

人件費はコンサルを活用して適正配置を検討するというのですが、人件費に切り込んでいくのはなかなか難しい部分があるので、材料費をいかに抑えるかが大事だと思います。

公立病院でもあるので入札をしっかりと実施し少しでも安いところから買う工夫が必要だと考えます。

今回、420床での運用を開始しているが、適正かどうかの判断にあたっては1～2年の検証期間が必要だと考えます。

当院は、当初360床で計画したが315床にダウンサイジングしています。

【委員】

みなとメディカルセンターの構造改革の中身はどのようにお考えでしょうか。

【事務局】

病床数の削減や診療科の見直し職員数の適正化に加え、患者の獲得努力も必要であると考えています。

【委員】

公立病院の在り方から検討すべきだと思います。

公立病院は民間病院が担えない機能を担い、地域医療を支える存在だと考えています。病床数や診療科についてもそのパーツではあるが、本質的にみなとメディカルが地域でどのような役割を担おうとするのかが一番大事だと考えていますが、その点、市の考えはいかがでしょうか。

【事務局】

みなとメディカルセンターが担う機能は、救急医療、高度・急性期医療、小児・周産期医療、政策医療の4つの柱です。この中には不採算医療と呼ばれるものも含まれていますが、市からの繰り出し金等で対応している状況です。構造改革ではその他の部分が自律的に運営できるようにしたいと考えています。

【会長】

この件については次回の審議会で明確にお示しいただきたいと思います。

【市立病院機構理事長】

当院が担う機能としては急性期医療だと考えるが、今後は高齢者救急の受け皿がどこになるのか考えなければなりません。

高齢者救急が介護施設との連携が取れ、かかりつけ医が担える体制を整えば、当院は急性期に特化した医療を目指すべきだろうと考えます。

ただし、今の診療報酬体系で救急医療だけでは採算は取れないので、市の考え方を示してもらわなければなりません。

赤字覚悟で急性期医療、小児・周産期医療、政策医療をやるのか、採算を優先するのか。明確にしていただかないと方向性が定まりません。

採算をとるならサイズダウンし、人件費を削っていかないといけません。採算を度外視するのであれば市民のために機能を充実していこうと思います。

令和元年と令和6年を比較すると収入は3億円程度の減にとどまるが、実際の損益は14億円ぐらいあります。病床数に見合う人件費よりもはるかに多くかかっている、材料費もそれなりに高いものを使っています。どの病院もそうだと思うが収入の減少率に比べると、物価高もあり給与費、診療材料費の上昇率が大幅に上回っている状況が見て取れ、構造改革を進めるうえで難しい課題だと感じています。

何より当院の経営を市民や議会、さらには市役所にも理解してもらうことが難しいと感じます。

【委員】

みなとメディカルセンターには最後の砦として、脳外や心外も含めたところでの救急医療や高度先進医療を担ってもらいたいと思います。周産期医療も含めて不採算医療を引き受けていただいていることも理解しているしそのための繰入金であろうと認識しています。

【市立病院機構理事長】

コンサルには材料費も見てもらおう予定だが、当院の不採算医療に対する補助は極めて少ない。市にも要望はしているがなかなか引き受けてもらえない。

【委員】

みなとメディカルセンターには、働きかけを行って歯科の部門を作ってもらった経緯があります。最低限のチームで実施している状況ですが歯科部門の存続について方向性は決まっているのでしょうか。

【市立病院機構理事長】

当院の歯科は大学との協定のもとに実施しているので、今後については大学との兼ね合いの中で考える必要があるが、周術期や救急に介入してもらうことで合併症が減っているという事実はあり、重要な部門であると認識しています。

【委員】

存続の方向で検討してもらいたいと思っています。

【委員】

大学病院は98床を削減して稼働率は上昇したが、後方支援病院との連携がうまくいかず、救急の患者を入院させることが難しいタイミングが出てきています。病床削減についてはよく検討し、後方支援病院との連携をとってやらないと、ベッドが足らなくなってしまうのではないかと考えます。

みなとメディカルセンターが担っている新生児医療、小児・周産期医療は大学と密に連携している必要があります。

新生児内科について、みなとメディカルはどのように考えているのでしょうか。

【市立病院機構理事長】

当院のNICUは9床ですが、出生数の減少で毎日2～3人しか入院していないため、GCUもまとめて一体運用しても良いぐらいの状況になっています。

新生児の医師は鹿児島市立病院からの派遣となっているが、鹿児島市立病院もNICUを80床から50床に減床しました。

新生児の医師も減っているなので今後の派遣は補償できないと言われています。

大学からの派遣も見込めないため当院のNICUは運営できなくなる可能性があります。しかし長崎医療圏の出生数は3000人を超えない状況から、NICUは長崎大学の12床だけでも良いのではないかと考えています。

みなとメディカルのNICU、GCUは不採算部門でもあるため経営を考えるのであれば、将来的には廃止も考えられます。

加えて結核病床も同様に大学だけでまかなえるため、経営の効率化を指摘されるようなら、当院で結核を診る必要はないのではないかと考えます。

【委員】

みなとメディカルセンターの位置づけと長崎市の地域医療をどのように考えているのか市にお聞きしたい。

【事務局】

地域医療といっても一次救急から三次救急、新たな地域医療構想や在宅医療などさまざまで、人材不足等の課題を各部門で抱えている。これら課題解決に向けては病院間の連携も含めて総合的にグランドデザインを描く必要があると考えています。

現時点でそこまで大きなグランドデザインはできていませんが、国や県と連携し今ある医療資源を有効に活用して、持続可能な地域医療を目指していければと思っています。

【委員】

みなとメディカルセンターは最後の砦で、不採算医療があるのは間違いないですが、そこをどう支えるかは市がしっかり考える必要があると思います。

そしてそこにお金を使えるのは長崎市だけだと思うので、どのように予算を使うのか私たちにも示していただきたい。

現在ほとんどの医療機関が赤字で、市内の病院の半数は築30年以上経過しており、建て替えの議論も必要です。市としてそこに公的なお金を使えるのか、示していただきたい。

【会長】

続きまして報告事項として、「長崎区域 区域対応方針について」事務局から説明をお願いします。

【事務局】

～長崎区域 区域対応方針について説明～

- 構想区域のグランドデザイン
- 現状と課題
- 今後の対応方針
- 具体的な計画

【会長】

ただ今の説明に関して、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。

【委員】

～質疑・意見なし～

【会長】

それでは、これをもって議題については終了となります。進行を事務局にお返しします。

【事務局】

会長、どうもありがとうございました。

委員の皆様におかれましては、本日は長時間にわたり、貴重なご意見等をいただきましてありがとうございました。

次回の審議会は 9 月ごろを予定しており、みなとメディカルセンターの構造改革案を策定し、改めて皆様のご意見をいただきたいと思います。

令和7年度第1回長崎市地域医療審議会出席者名簿 計17名

| 委員名 | 団体名等 | 備考 |
|--------|-----------------------------|-----|
| 井上 健一郎 | 社会医療法人春回会 井上病院 理事長 | |
| 今村 由紀夫 | 医療法人昭和会 昭和会病院 理事長兼院長 | |
| 上田 展也 | 一般社団法人 長崎市薬剤師会 会長 | WEB |
| 衛藤 正雄 | 社会福祉法人恩賜財団済生会支部済生会長崎病院 院長 | WEB |
| 貝通丸 剛 | 一般社団法人 長崎市歯科医師会 会長 | |
| 糟谷 操子 | 公益社団法人 長崎県看護協会県南支部 支部長 | |
| 門田 淳一 | 地方独立行政法人長崎市立病院機構 理事長 | |
| 栗原 正紀 | 一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 理事長 | WEB |
| 谷口 英樹 | 日本赤十字社 長崎原爆病院 院長 | |
| 西野 友哉 | 長崎大学病院 副病院長 | |
| 野濱 哲二 | 長崎市老人福祉施設協議会 会長 | WEB |
| 橋本 敦郎 | 医療法人光善会 長崎百合野病院 理事長 | |
| 早川 航一 | 一般社団法人 長崎市医師会 理事 | WEB |
| 松尾 史江 | 長崎市介護支援専門員連絡協議会 副会長 | |
| 松元 定次 | 一般社団法人 長崎市医師会 会長 | |
| 長島 聖二 | 独立行政法人国立病院機構 長崎病院 院長 | |
| 吉武 孝敏 | 社会医療法人 長崎記念病院 理事長 | WEB |